

## 【村松俊夫個展「凍れる、重力。」 - Frozen Gravity -】

会 期：2015年8月24日(月)～9月18日(金) 8:30～20:00 (最終日は16:00まで)

会 場：天王洲セントラルタワー・アートホール ※土・日・祝日休館

([http://www.e-tennoz.com/bldg\\_info2\\_cen.html](http://www.e-tennoz.com/bldg_info2_cen.html))

古くから聴覚を媒介とする芸術(たとえば音楽)と視覚に訴える芸術(たとえば建築や絵画、彫刻)は、似通った構成要素を持っているものとして語られることが多い。

明治期に日本美術を評価したアメリカ人美術史家フェノロサは、奈良薬師寺東塔の屋根と裳階が交互に繰返すリズムを見て「凍れる音楽である」と言った。

そもそもこの一文に類する台詞は、さかのぼればゲーテに代表されるドイツロマン主義の思想家の文章に多く見られる。いずれにせよこの詩的な表現は、多くの哲学者や美学者の琴線にふれ、様々な言説の中に繰返し取り上げられてきている。

現代に至っても、著名な日本人作曲家が音楽と建築との間に同種の類縁関係を見ている。

「前進感覚(時間)」と「上下関係(重力)」である。音楽では、ある音の次に別の音が鳴り、次々と音が流れ出て、次第に重なってゆく。音楽における時間的な「重奏性」は、空間芸術であれば上層を下層がうけとめる「上下関係」すなわち「重層性」であろう。

空間芸術とは、人間と重力との闘いの表現であり、造形の秩序の根本には重力の秩序、それをいかに制御するかという力学の法則がある。そして、空間芸術を観る者はその大きさに圧倒されるのみならず、その重力との闘いを追体験することに感動を覚えるのだと……。

そこにはあきらかに、聴覚芸術と視覚芸術という異なった2つのジャンルを結びつける

「感覚の互換性」ともいべきものが存在している。両者に通底する要素のひとつ

「重なり合い(重奏性・重層性)」は、視覚芸術においては「重力」である。

もし、それを抽出して硬質なオブジェに凍らせてみたら…。

そんな思いが作品になりました。やはり、そのたたずまいは美しいです。





凍れる、  
重力。

FROZEN GRAVITY

## 村松俊夫個展

2015年8月24日(月) - 9月18日(金)

天王洲セントラルタワー・アートホール

8:30~20:00 (最終日16:00まで)  
土曜・日曜・祝日休廊

# 村松俊夫個展

## 凍れる、重力。

FROZEN GRAVITY

古くから聴覚を媒介とする芸術(たとえば音楽)と視覚に訴える芸術(たとえば建築や絵画、彫刻)は、似通った構成要素を持っているものとして語られることが多い。明治期に日本美術を評価したアメリカ人美術史家フェノロサは、奈良薬師寺東塔の屋根と裳階が交互に繰返すリズムを見て「凍れる音楽である」と言った。そもそもこの一文に類する台詞は、さかのばればゲーテに代表されるドイツロマン主義の思想家の文章に多く見られる。いずれにせよこの詩的な表現は、多くの哲学者や美学者の琴線にふれ、様々な言説の中に繰り返し取り上げられてきている。

現代に至っても、著名な日本人作曲家が音楽と建築との間に同種の類縁関係を見ている。「前進感覚(時間)」と「上下関係(重力)」である。音楽では、ある音の次に別の音が鳴り、次々と音が流れ出て、次第に重なってゆく。音楽における時間的な「重奏性」は、空間芸術であれば下層が上層をうけとめる「上下関係」すなわち「重層性」であろう。空間芸術とは、人間と重力との闘いの表現であり、造形の秩序の根本には重力の秩序、それをいかに制御するかという力学の法則がある。そして、空間芸術を観る者はその大きさに圧倒されるのみならず、その重力との闘いを追体験することに感動を覚えるのだと……。

そこにはあきらかに、聴覚芸術と視覚芸術という異なった2つのジャンルを結びつける「感覚の互換性」ともいうべきものが存在している。両者に通底する要素のひとつ「重なり合い(重奏性・重層性)」は、視覚芸術においては「重力」である。もし、それを抽出して硬質なオブジェに凍らせてみたら…。そんな思いが作品になりました。やはり、そのたまたまは美しいです。

### 【関連イベント】

レセプションパーティー  
8月28日(金) 18:00~



奥：Space Walk on the Earth IV  
左：Space Walk on the Earth I 右：Space Walk on the Earth II  
手前：A study of tanGible e



A study of tanGible G



A study of tanGible ∞



A study of tanGible Zero



A study of tanGible N

撮影:末正真礼生

## 村松俊夫

Toshio Muramatsu

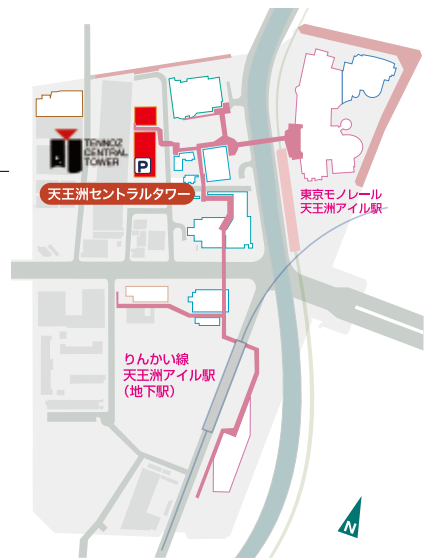
1980 東京藝術大学美術学部デザイン科 卒業  
1982 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程構成デザイン専攻 修了  
現在 山梨大学大学院教授 / モダンアート協会会員

### ● 個展

- 1980 『Optical Scandal』(東京藝術大学学生会館展示室)
- 1987 『間・軌・光跡』(山梨県立美術館)
- 1987 『浮遊する、虚空』(銀座・コバヤシ画廊)
- 1988 『揺れる、虚空』(銀座・コバヤシ画廊)
- 1989 『幾何学のおきあがりこぼし』(池袋西武・アトリエ・ヌーボー)
- 1989 『揺れる虚空・それぞれのポジション』(池袋西武・DCゾーン)
- 1991 『まわる・めぐる・ゆれる』(池袋サンシャイン60・アイキャッチャー)
- 1993 『ゆらぎの、形象』(甲府・画廊三彩洞)
- 1994 『光の中の波たち』(銀座・コバヤシ画廊)
- 1996 『キネティズムを視る森』(宇都宮・テプロデザインギャラリー)
- 1997 『波の回廊(コト・ル)』(甲府・クリスタルミュージアム)
- 2003 『重なり逢う刻たち』(釈迦堂遺跡博物館)
- 2005 『触知する、重力。』(山梨県立美術館)
- 2006 『村松俊夫展』(山梨県立美術館)
- 2007 『A Locus of Infinity ∞ -無限の軌跡-』(新宿・ギャラリー絵夢)
- 2012 『地上遊泳』(山梨県立美術館)
- 2014 『Geometric Gravity』(南青山・ギャラリー5610)

### ● 公募展・選抜展・コンクール・受賞

- 1982 第32回モダンアート展  
「モダンアート協会賞」「安田火災美術財団奨励賞」受賞(東京都美術館)
- 1983 第1回ハイテクノロジーアート展「特別賞」受賞(銀座・ギャラリー月光荘)
- 1984 第34回モダンアート展 会友推挙(東京都美術館)
- 1984 第2回安田火災美術財団奨励賞展(新宿・東郷青児美術館)
- 1985 第17回現代日本美術展(東京都美術館・京都市立美術館)
- 1986 第8回エンバ賞美術コンクール「優秀賞」受賞(芦屋・エンバ中国近代美術館)
- 1986 第16回日本国際美術展(東京都美術館・京都市立美術館)
- 1987 第9回エンバ賞美術コンクール(芦屋・エンバ中国近代美術館)
- 1988 第38回モダンアート展「奨励賞」受賞(東京都美術館)
- 1989 第39回モダンアート展 会員推挙(東京都美術館)
- 1989 第19回現代日本美術展(東京都美術館・京都市立美術館)
- 1989 第3回アトリエ・ヌーボー・コンペ「特別賞」受賞(池袋西武・アートフォーラム)
- 1990 第18回日本国際美術展(東京都美術館・京都市立美術館)
- 2004 第40回神奈川県美術展  
「神奈川県美術奨学会賞」受賞(神奈川県民ホールギャラリー)
- 2005 第41回神奈川県美術展(神奈川県民ホールギャラリー)
- 2007 第57回モダンアート展新企画展示  
「見えないものを視るオブジェたち」(東京都美術館)
- 2009 第59回モダンアート展特別展示「Space walk on the earth」(東京都美術館)
- 2015 第4回公募団体ベストセレクション2015(東京都美術館)
- その他 企画・招待・グループ展等多数



天王洲セントラルタワー・アートホール  
〒140-0002 東京都品川区東品川2-2-24  
tel:03-5462-8811

東京モノレール利用◎天王洲アイル駅より徒歩2分  
りんかい線利用◎天王洲アイル駅より徒歩5分  
山手線利用◎品川駅より徒歩13分

### ● 科研費

このプロジェクトは日本学術振興会科学研究費補助金  
平成23年度基盤研究(C)課題番号23531246  
平成27年度基盤研究(C)課題番号15K04489の交付を受けておこなった。